



※今月号から短歌の評を取り止め、俳句・短歌ともに15作品を掲載します。

投稿数23句

屋号にも慣れし幾年梅の花

三沢 新井 民子

(評) 都会ではまず詠めない句で、田舎の場合地形とか風物、或いは当主の呼び名等々、色いろの容の一言で、それと解る通称を持ち、こゝもそうした家号で親しまれている家と思う。振り返ると嫁してもう久しい。近く、山も川も、また屋敷木のあるもこれもみな歳月をともした仲間、家族との想い出の主役をつとめるのが、この梅であろうか。次に芽吹き、春の日差しに目を追って、木々の芽にはそれぞれが特色をもち、浅緑や薄紅色の生命力の強さを感じさせ、古歌にはこれを「木の芽張る」と言つて讃嘆した作品が多く遺されている。

潤ひの日毎につのる芽吹かな

初初しきひかり放ちて地虫出ず

下日野沢 植木 豊子

三沢 真下 杏子

やわらかな日差しの中に春のこえ

春裕おしやれ心の試着かな

国神 松岡 千恵

皆野 橘 月子

此の頃の三寒四温に戸惑ひぬ

雛うたに聞き耳立てる床の中

下日野沢 小川 もと

下田野 根岸 進

春雨や息子の住む街を素通りす

火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山

皆野 桜井 早苗

三沢 新井 叶子

臘梅や瀟を見下す大鳥居

菜の花や湯布院樂し旅三日

金沢 関和 起一

皆野 新井 茂

まだ土の匂ひが勝ちて青き踏む

水墨画薄墨滲む白椿

下田野 中田 久恵

三沢 沢野 恒平

おろおろと足の痛みや春近き

饅頭の香り際だつ春の午後

皆野 大沼シツ子

下日野沢 佐藤 清子

大病に勝ちてフィギュアの妖精は希望の華をトリノに咲かす

優雅なる舞に闘志を燃やしたる金メダルの笑み感動湧きぬ

白れんの花の命の短かかり一夜の霜に老ひさびにける

七人が五人となりて姉九十親の三十三回忌集う

お守りと百一才の長寿銭吾娘より賜り涙の吾は

若松芯を折られて迷うてた上枝起てれば芯と育くむ

寒暖の変化に戸惑い一泊の旅の支度や心悩ます

吾が従兄弟亡妻の遺影を机辺に眞實一路貫き通す

鶯の優しき声に誘われて鳴き真似うたう雅遊となりて

満場の喝采に湧き凜として氷上の華は世界を征す

世の中を見つめて伸し此の立木今伐り出され何か佗しき

金メダル得し銀盤の舞姿いくたび見ても感涙のわく

氷上に華麗な舞にて金となり日本に優雅な誇りもたらす

峡の木々明るき光に覚め初めむ厳冬耐えし愛し自然よ

変る世の波乗り越えた人生を振り返りみる今日此の頃

皆野 野卷 黒沢 根岸 静子  
投稿数17首

俳句・短歌を募集 (8日必着)

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。1人1句、1首に限ります。